

令和6年度 大阪市立生涯学習センター運営評価委員会 要旨

1 日時 令和6年11月11日(月) 午後3時00分～5時00分

2 場所 総合生涯学習センター 第1研修室

3 出席者

【委員】赤尾勝己委員(座長)、出相泰裕委員、岩槻知也委員、西本聡子委員、
嶋津敏治委員、有富恵子委員、

【事務局】総合生涯学習センター：渡部所長、川崎副所長、竹内企画推進課長、
糸井事業主幹、管理係長兼情報担当係長、
事業係長、職員(記録)

阿倍野市民学習センター：高貫所長 難波市民学習センター：橋本所長

【オブザーバー】大阪市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当職員

4 次第

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 案件

令和5年度生涯学習センター事業の評価について

(4) その他

(5) 閉会

5 会議概要(主な発言等) *要旨を表すため一部省略、言い換え等を実施

◆案件 令和5年度生涯学習センター事業の評価について

分野1：情報収集・提供と学習相談

(委員) 日本語の学習機会への問い合わせが多くなっているとのことだが、どういう実態になっているのか。それと関わって令和5年度の取り組みでセンターホームページにおいて一部のサービスを多言語化で情報提供をしているが、これの使用実態はわかるか。

(事務局) 日本語の学習に関しては、講座に参加したいという問い合わせが多く、その際の言語対応として、講座の参加者募集のチラシにおいて、これまでの4か国語に加えて新たに3か国語を加えた。電話の場合、コミュニケーションをとりにくいという実態があり、問合せ先にメールアドレスを記載したところ、メールでの問い合わせが増えた。さらに、令和6年度よりQRコードからネット申し込みもできるようにしたところ、ネット申し込みが多くなっている。

ホームページの中で多言語の部分だけのアクセス数をとることは難しい。

(委員) 貸室利用団体へのアンケートで、いちようネットを見たことがある人の数値が55.4%と記載されているが、だいたいこのような数字で推移しているのか。

(事務局) いちようネットを見たことがある方の割合については、近年、ほぼ同じような数値で推移している。

(委員) なぜこの数値なのか。センターホームページを見たことがある方の割合73.4%に比べて、なぜ低いのか。

(事務局) いちようネットは7日から予約が取れる仕組みとなっており、早く部屋を取りたい場合、抽選会が優先ということになる。貸室の継続利用団体は、いちようネットから部屋の予約を取らず抽選会に来ていると考えられる。しかし、これからの時代は、利用団体の方にもいちようネットをより宣伝し活用いただきたいという思いから、課題として記載した。

(委員) いちようネットの予約ができるのが、抽選会の後、7日からということだが、もう少し期間を短くすることはできないか。もしくはネット対応の用に枠を設けるとか、どうしても事情で抽選会に行けない人にももう少し配慮があれば、いちようネットの活用も増えるのではないか。

(事務局) 7日という日付は年末年始の休館日と関係していて、毎年1月4日までが休館日になっており、抽選会は5日となる。さらに、3館のいずれかの休館日が5日に重なれば、抽選会が6日になるため、これ以上早くする事が難しい。

現在のところ、抽選会を行った日の午後から電話も含めて先着順に予約を受け付けるという仕組みになっているので、いちようネット用に枠を空けておくということについては、非常に難しい問題がある。

(委員) LINE友だちの登録件数が増えているが、今後どういう形で登録件数を増やしていこうとしているのか。

(事務局) 各種講座の募集チラシなどに、LINE登録のQRコードをつけたところかなり増えてきたということがあり、継続して取り組んでいく。その他、パンフレット等を含め、LINEの登録につながるような広報に努めていきたい。

分野2：現代的・社会的課題に関する学習機会の提供

(委員) オンライン講座に関しては、事業趣旨が達成できる講座はオンラインで実施したとのことだが、その趣旨が達成できる基準や条件は何か。

(事務局) 条件のひとつに講師の同意がある、他には昼間仕事をしていてセンターに来れない人など、内容によってオンライン配信もしくは録画配信で好きな時に聞いてもらえるような環境を提供している。また、テーマでは、例えばAIという内容に関心が高い層に届ける時にはオンライン配信を積極的にするなど、内容によっても検討している。

(委員) いきいきセミナーについて、今後は他のどういった障がい者に対する対応を考えているのか。

(事務局) これまで聴覚障がいの人を事業の柱としていたが、今後は障がいに関わらずセンターへ足を運ばない人を主な対象とした事業を来年度から実施したいと考えている。具体的な内容はこれから検討していくが、3館それぞれで取り組んでいきたいと考えている。

(委員) 現代的社会的課題の重点テーマで、3館で分野の配分がされているが、地域性などの根拠があって分担しているのか。

(事務局) 各館で必要なテーマを決めて、3館で重ならないように分担している。例えば、子ども・子育ては地域性のある阿倍野CLCで実施するなど工夫している。

分野3：人材養成・研修

(委員) はぐくみネットコーディネーターについて、研修受講者数が少ないことが課題と書いているが、登録者数が1,104人いて44人しか参加していないので、参加率がかなり低い。これはどのような背景があるのか、それと今後どのような対策を考えているのか。

(事務局) 確かに少ないが、以前と比較すると増えてきている。生涯学習推進員研修との大きな違いは、推進員研修は必修でそれを受けないと委嘱できないこともあり、毎年多くの人に受講いただいている。一方、はぐくみネットは自由視聴なので、興味関心のある人のみが受講している。広報も大事なので、教育委員会がコーディネーターに委嘱状を送付する時に必ずチラシを同封していただくなどの努力はしている。

以前に調査研究事業で実施したアンケートで、はぐくみネットコーディネーターが

他の校区の活動を知りたいという意見も多かったので、令和5年度から「教育コミュニティ実践交流会」を開催した。これは各区で一生懸命頑張っている取り組みをみんなの前で発表していただき、他の校区の参考にさせていただくと同時に、動画に残してセンターホームページに掲載しており、自由視聴できるものなので、これからも継続して取り組みながら、情報の集積・発信して広く共有してきたいと考えている。

(委員) 確認だが、コーディネーターは研修に出ていない人も活動しているのか。あるいは活動もしていない、研修も受講していないような、完全に教育を離れた人も結構いるのか、状況を教えて欲しい。

(事務局) 実情がどうなのかつかめていない実態があったので、コロナ禍の中ではあったが、調査研究事業でアンケートを取ったところ、390件ほどの回答があった。やはり校区によって差があり、一生懸命のところと名前だけのところがある。はぐくみネットが地域で認知されていない、何をしたいかわからないといったような意見もあったりして、校区によって活動内容が違うので、他の校区の状況がわかりづらいという状況である。

(委員) 生涯学習推進員とはぐくみネットコーディネーターの両方を兼ねている人の比率はどうか。

(事務局) 正確な数字ではないが、この調査研究の回答者の2割くらいになると思う。

(委員) 私は大阪市生涯学習推進員協議会の会長だが、確かに2つが被っている部分があり、どうしても推進員事業に力が入る。地域の教育機関としての内容が似ている。どちらもPTA経験者から始まっており、推進員は校区から区全体や大阪市全体の活動もある。今回、教育コミュニティづくり実践交流会に参加してみんなの活発な意見を聞いたら、一生懸命やっているところがたくさんあったので、そこに協力できたらなという意見もあった。

(委員) 私は両方兼任しているが、正直、活動自体が被ってることが多くて、申し訳ないがはぐくみネットの研修には参加していなかった。はぐくみはPTAの地域の経験者の会みたいな形で小学校に付随して、はぐくみ自体で何か活動をしているのではなく、地域と小学校をつなげる役目になっているので、それが生涯学習とは結びつかず研修会に関心が向かない、必要性を感じてもらえてないと思う。それを推進員のレベルに上げていこうというのは、やはり地域性でやっている活動内容が違うので難しいと思う。推進員とはぐくみと何が違うのか明確にして、それが認知されればもう少し住み分けができるのではという印象を受けた。

(委員) 確かに両者の研修の内容を被らせていたら、それだけ受講できやすくいい手だと思ったが、逆にそれで参加しにくいという事もある。全く別にするとダブルの負担になるし、難しい。

(委員) 今後、大阪市教育委員会にはうまく推奨してもらおうといった形で少し改善をお願いしたい。

(委員) インストラクターバンクについて、稼働率はどのくらいなのか。また特に多く稼働しているのはどのような領域か。

(事務局) 稼働率は、コロナ禍前の平成30年度が紹介件数は480件で、成立数は40%であった。令和5年度に関しては、紹介件数が303件になっているので少しずつ戻ってきている。成立数については、年度によって違うが、だいたい30%から40%位で推移している。

人気のジャンルは毎年違うが、令和5年度では、「書道・健康体操・ヨガ・マジック・英語・コーラス」あたりが人気となっている。

分野4：企画開発とネットワーク

(委員) 大学・企業等との連携による学習機会の提供として、大阪府内地域連携プラットフォーム（大阪府・大阪市・大阪商工会議所・大学コンソーシアム大阪による大阪地域の産官学連携プラットフォーム）が主催して行っている大学のリレーの公開講座のチラシを配架してもらうなどセンターに協力してもらった。私たちの課題を共有させてもらうと、周知で非常に苦労している。センター利用者に広く案内ができるのはありがたい。公開講座の他にも、リカレント教育やリスキングなどの連携もできたらありがたい。

(委員) 当大学のある学生がリーダーシップを取って共同体を作り、助成事業に申請したところ選定されたので、一つを除いてすべての事業を見に行った。最終回の赤ちゃんが泣いてもいいクラシックコンサートなど、日頃こういう人たちは中々出られなくて、こういった機会を待ち望んでいたことが非常によくわかった。学生も自分たちが成し遂げたことで、自分に自信がついたみたいでいろいろな面で学生にとっても、参加者にとってもみんなウィンウィンになれるような機会を与えてもらい感謝している。また後輩がつづけばいいと期待している。

(委員) センター案としての評価が×になっているが、これでよいか。

(委員) 事業②「大学・企業等多様な主体との連携講座数・前年度維持」は実施講座数が減

つてるとはいえ、誤差の範囲ではないかを感じる。

(事務局) 事業②は連携している団体数としては増えており、ただ実施した講座を回数で数えると、若干少なかったというところなので、そう言っただけで大変嬉しい。

(委員) それでは、事業②については、×を△にするということによいか。

<異議なし>

(委員) では、△に評価を変更する。

分野5：区や地域における生涯学習の支援

(委員) 防災タイムアタックは、今年2月に西区のイベントで使わせてもらった。子どもたちにも反応が良く、子どもも大人もみんなで一生懸命考えてすごくいいプログラムだと思った。第3弾が出たという事で、すごく興味を持っているが外国の方と共に学べるという事で、内容は一緒だが多言語に対応しているということか。

(事務局) 第3弾の内容は第2弾の内容と大きく変わっていない。やさしいにほんごで学べる内容になっており、ネット環境が整っていればどこでもできる為、使いやすい仕様になっている。地域の子ども子育てプラザなどでも、外国の人が利用されるときにコミュニケーションツールとして使われているという情報も入ってきている。ぜひご活用いただきたい。

(委員) 生涯学習推進員の年齢層が上がってきていて、最初から務めてくれてる人の半数が70歳を超えてきている。次の人が出てこない、いずれ人数が少なくなるので、センターと一緒に盛り上げていく方法としてLINEがあると思う。僕ら世代はLINEを主に使うので、今後の改善策として記載されているLINEの使い方について詳しく聞かせて欲しい。

(事務局) 今はまだ企画段階であるが、イメージとしては、総合の公式LINEのアカウントの所に、生涯学習推進員さんが登録できるものを作って、センターからの公式情報の中から、推進員に関するものだけが流れるような形を想定している。今までの情報発信と違って、受け取る側にすると、センターが発信しているたくさんの情報から取捨選択が難しかったり、必要な情報にリーチできないところがあったりしたが、登録することで関係する情報が受け取れるのはLINEの良さなので、その方向で開設を進めていきたい。

(委員) それはいつ頃完成するのか。

(事務局) 来年度以降にと考えている。

(委員) 期待している。

(委員) 事業①「防災学習プログラムOSAKA防災タイムアタック！及び生き抜くチカラ編（*第1・2弾）の貸し出し件数・前年度以上」についても、自己評価は×としているが、わずかに数値が下がっているだけなので△で良いと思う。

<異議無し>

(委員)では、△に評価を変更する。

分野6：利用促進とサービス向上

(委員) 課題・改善策①の情報発信で若い世代へのアプローチを図るということだが、特に考えていることはあるのか。もう1点、NPOとか民間団体がこういう場所を求めていることはないのか。

(事務局) 若い世代へのアプローチだが、我々世代はLINEとかフェイスブックに頼りがちだが、若い人の意見を聞くとやはり中心になっているのはInstagramということで、先日センターの公式のInstagramを開設した。手始めに予約方法などのリアル動画を作成し公開している。

もう1点、NPOのニーズはあると考えている。商工会議所では企業を中心にPRしたが、今後はNPOをとりまとめている関係機関にも周知を図っていくようPR活動を進めていく必要があると考えている。

(委員) たとえば、高校生の文化祭などはどうか。

(事務局) これまで高校生の文化祭は利用例がないが、以前、難波市民学習センターでよく漫才の練習で部屋を借りていただいていたので、そういうニーズもあると思う。

(委員) 文化祭の練習とかになると、利用料金は発生するのか。また音とかも厳しいのか。

(事務局) 料金は発生する。ここ第1研修室は防音しており、太鼓などは困るが楽器ならピ

アノ、ハーモニカ、笛などは使用してもらえます。また、阿倍野及び難波市民学習センターにはスタジオがあるので、そういう用途でも利用できる。いずれにしても相談していただければ対応する。

(委員) 区民センターの利用料金とはそんなに変わらないのか。

(事務局) 当センターの方が高い。区民センターは、元々、利用料金を安価で提供する設定となっている。

当センターは交通至便な位置にあり、人数が多いと使いやすいが、参加している人数で部屋代を割っている利用者にとっては、少人数だと厳しい面があるかもしれない。

座長まとめ

分野1について、日本語学習の講座の問い合わせが多く、多言語化していく中で電話での対応は難しいが、メールでも対応できるようにしたことは非常に良い事なので、今後もどんどんやってほしい。

分野2について、いきいきセミナーは、現在、聴覚障がい者を対象とする講座だが、それ以外の障がいの人たちにウイングを伸ばしていくような取り組みをお願いしたい。これは大阪市の第4次生涯大阪計画に関わるものなので、期待している。

分野3について、エルキューブは、生涯学習推進員の人たちと同じ目線で情報交換でき、困りごとなどが共有できるという点で非常に良いと思う。現在の3講座をもう少し増やしていけばよいのではないかと。はぐくみネットコーディネーターと生涯学習推進員の研修が重複しており、それが良いのかどうかという意見があった。これに関してはセンターと教育委員会で協議をお願いしたい。生涯学習推進員の年齢層が上昇しているという話もあったので、今後どのように後継者を発掘していくのかと、LINEの活用を進めていただきたい。

分野4については、事業②の評価を×から△に変更。

分野5については OSAKA 防災タイムアタック第3弾が出たという事で、災害弱者になりがちな外国人たちにもウイングを伸ばして学べるようなものができたというのはとても良いことだと思う。そして、それをホームページよりダウンロードできるようになり、160件もの利用があったのは本当に素晴らしい。これからさらに発展することを期待している。事業①の評価を×から△に変更。生涯学習推進員については、総合の公式LINEのアカウントを整備していく方向だということなので、ぜひ来年度稼働できるような形をお願いしたい。

分野6については、若い世代へのアプローチについては、若い人の意見を組み入れながら、やり方を考えて欲しい。それから何とんでも利用料金のところ、料金が区民センターに比べてやや高いということなので、使い勝手のいいような形で今後検討いただきたい。